

ネットワークアンケート ⑪

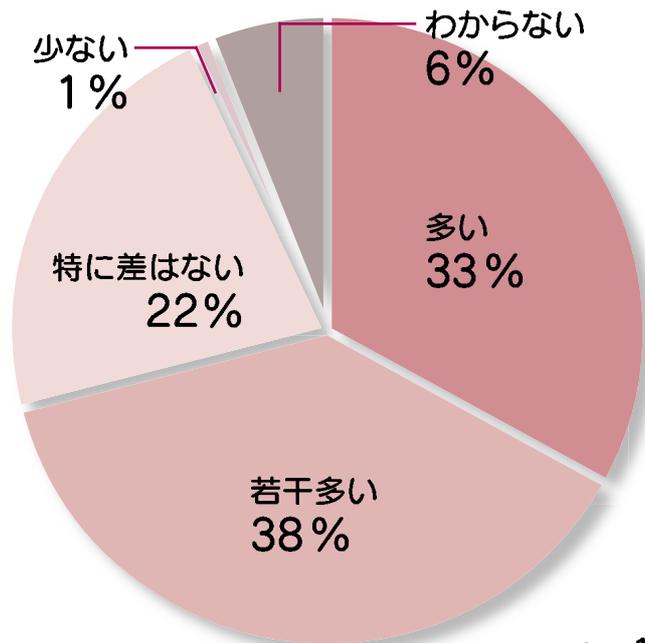
糖尿病ネットワークを通して

医療スタッフに聞きました

Q. 他疾患と比べ糖尿病患者さんのうつの頻度はどの程度と感じますか？

糖尿病患者数の急増が問題になっていますが、うつの患者数も増えています。糖尿病にうつを合併することは多く、非糖尿病患者より約3倍、うつを発症する確率が高いとも言われています。糖尿病であることを受け入れ、一生付き合っていく行かなくてはならない糖尿病患者さんのメンタルケアは、今後ますます需要が高まるのではないのでしょうか。

[回答数：医療スタッフ176(医師45、看護師49、准看護師1、管理栄養士33、栄養士1、薬剤師26、臨床検査技師11、理学療法士6、その他4。うち日本糖尿病療養指導士54、健康運動指導士3)、患者さんやその家族492(食事療法を行っている315、運動療法を行っている241、経口薬を服用している65、インスリン療法を行っている274。重複回答)]



約7割の医療スタッフが他疾患の患者さんよりうつの頻度が「多い」「若干多い」と感じているようです。併せて、糖尿病患者さんのうつ傾向の比率を尋ねてみると、約半数の医療スタッフが糖尿病患者さんの20～49%にうつ傾向の可能性を感じていると答えました。‘糖尿病患者さんはうつを合併することが多い’ことを88%の医療スタッフが‘知っている’と答えていることから、「糖尿病とうつ」についての認

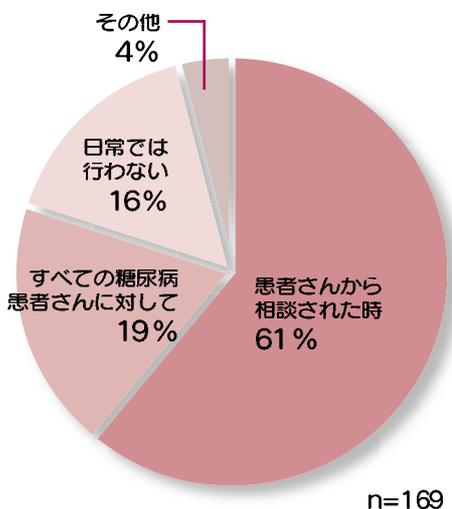
識はとても高いことがうかがえます。

一方、下のグラフをみてみると、すべての糖尿病患者さんに対して心理的ケアを行っているのは約2割。心理的ケアが難しい理由として‘非専門医が半可な知識や経験で治療すべきではない(医師)’、‘人員・時間的制約があり困難。また、真剣に傾聴するほど自分自身の精神的負担が大きくなるので難しい(看護師)’といった意見のほか、プライバシーの問題もあり、患者さんが口を開かない限り、さまざまな不安や悩みにふれることは難しい現状が表れています。心理ケアの対処

法についても、65%の医療スタッフが、話しを聞きアドバイスを行うなど“できるだけ自身で診ている”という実態があることもわかりました。

また、うつ傾向になると、食事指導が守れなくなったり、過食に走ってしまう等で肥満になるケースがみられることがあるようです。‘うつの患者さんは血糖値の高い方が多い(管理栄養士)’、数値の浮き沈みが多い患者さんはうつの可能性も視野に(看護師)’、中断や治療への抵抗など手の掛かる人ほど助けを求めている(医師)’といった意見もありました。

Q. 日頃の診察や指導の中で、糖尿病患者さんへの心理的ケアを行っていますか？



Q. うつ傾向になると肥満がみられる糖尿病患者さんの割合は？

